参考様式

令和８年度　立川市立第七小学校　授業改善推進プラン

学校の教育目標	○元気な子　　○ねばり強い子 ◎考える子　　○思いやりのある子

児童に育成を目指す資質・能力	複数の教科や学年全体に共通する取組
○各教科の基礎的・基本的な知識や技能の習得 ○既習事項を生かして、自力で問題解決できる態度・能力 ○自分の考えを分かりやすく伝えたり、友達の考えの主旨を理解したりしようとする態度・能力 ○自らを大切にするとともに、他の人も大切にすることのできる態度・能力 ○自己を生かし、友達と協力してよりよい集団生活を送ろうとする態度・能力	・校内研究（授業のユニバーサル化）を中心に、どの子も意欲的に取り組む授業づくりを行う。 ・全国学力・学習状況調査、東京ベーシック・ドリル調査、学力調査（私費）等の結果に基づいて個に応じた指導の充実を図る。 ・一人１台タブレットPCを有効に活用し、個に応じた学習活動、主体的な学習活動を展開する。 ・「自分の考えを分かりやすく説明する」「互いの考えを交流し合う」といった対話的な学習活動を行う。

教科	教科で育成を目指す資質・能力	資質・能力を育成するための具体的な取組（学習活動など）
国語	○基礎的・基本的な知識や技能の習得 ○情報活用能力の育成 ○思いや考えを広げながら、表現力を高め、言葉がもつよさを認識しようとする態度・能力及び読書の習慣化	・復習プリント、デジタルドリル、確認テストなどを活用し、漢字の読み書きの定着を図る。 ・国語辞典や教科書の巻末などを活用し、語彙を増やしていく活動を取り入れる。 ・学校図書館を活用し、学習の課題を明確にし、情報を集めたり選択したりしながらまとめ、発表する機会を設ける。また発表したことを振り返り、説明文の筆者の工夫などを発見、応用することができるよう指導する。 ・学習指導要領の言語活動例を参考にして、授業に言語活動を積極的に取り入れる。
社会	○基礎的・基本的な知識や技能を習得 ○様々な資料を読み取り、課題の発見や解決に生かす資料活用能力 ○生活体験を基に予測を立てる、豊かな思考力 ○学習した内容を、自己の生活に還元しようとする態度・能力	・都道府県や八方位、等高線など社会科の学習において必要な知識は、各学年小テストを実施し、繰り返し指導する。また、丁寧に教科書や資料集を読む習慣を付けることで、知識の習得を図る。 ・地図帳や資料集を活用して「地図、図、表、写真」等の資料を読み取る活動を取り入れ、気付いたことや考えたことを交流することで、更に深く現象について考える習慣を身に付ける。 ・一人１台タブレットPCを活用して、単元のまとめのスライド作り等、発言以外の自己表現をより活発化させた上で、互いの考えを交流し、自分の考えを深められるようにする。また、交流活動を通して気付いたことや得た情報と自己の生活体験を基に、自己の課題を見付けられるようにする。 ・授業の学習内容が、自分のこれからの何に関連付いてくるか等、当事者意識をもてるような導入やまとめを工夫して取り入れる。
算数	○基礎的・基本的な知識、技能の習熟 ○既習事項を生かして、新たな課題を自力で解決する態度・能力 ○文章題や応用問題を解決する際、図や数直線、表等を自ら活用して解決できる能力 ○課題について、筋道立てて考えをまとめ、分かりやすく表現できる能力	・習熟度別指導や、３年生を対象とした算数補習教室「算数道場」等を活用して、個の課題に応じた学習活動や学習課題を設定する。 ・ICT学習教材を活用し、様々なパターンの基礎的・基本的な問題に繰り返し触れさせることで、習熟を図る。 ・つまずきやすい単位の換算については、量感を具体的にイメージさせるために、実際に具体物を活用する活動を充実させながら習熟を図る。 ・既習事項を使って課題解決の方法を考える時間を授業の中で十分に確保し、自力解決するための態度、能力を養う。 ・苦手な児童にも、問題の意味が分かりやすくなるようにICT機器を活用して、視覚的な指導を行う。 ・数直線や線分図、テープ図を活用しながら問題を視覚化して題意を確実に理解し、少人数算数の授業内では、個に応じた丁寧な指導を行い、情報をより的確につかめるようにする。 ・互いの考えを交流する機会を多く設け、共有化する活動を積極的に取り入れ、自己の考えを分かりやすく説明する能力を養う。

理科	○基礎的・基本的な知識や観察、実験などの技能の習得 ○今まで学習したことを生かして、新たな課題を科学的に解決する能力 ３年生　問題を見いだし、表現する。 ４年生　根拠のある予想や仮説を発想し、表現する。 ５年生　予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現する。 ６年生　より妥当な考えを作り出し、表現する。 ○主体的に問題解決をする態度 ○生物を愛護したり、生命を尊重したりする態度	・教科書やワークシートなどを活用して、理科の用語などの知識を確かめる活動を取り入れる。 ・児童が観察、実験を行う学習場面を多く設ける。 ・実験をする際には、準備や手順を分かり易く提示する。 ・事物現象との出会い→問いを見いだす→予想→実験観察→結果→考察→結論（まとめ）が分かるよう、整理させる。 ・課題の設定や実験の計画・実施・考察・結論（まとめ）の各場面で、グループ活動を多く取り入れ、意見交換や議論を通して、自分の考えを改善する学習場面を設ける。 ・飼育、栽培活動を多く取り入れる。校庭や畑、花壇等の環境を生かした観察や実験を行い、身近な事象としてとらえられるようにする。
生活	○自分と身近な人々、社会及び自然のよさに気付き、地域に愛着をもったり自然を大切にしたりする態度・能力 ○身近な人々、社会及び自然との触れ合いの中で、自分たちの遊びや生活を工夫し、よりよくしようとする能力 ○自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考え、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活する態度・能力	・学校生活を支えている人々や地域で生活したり働いたりしている人々にインタビューする等の活動を多く設定する。 ・身近な自然や育てている動植物を観察し、違いや特徴に気付いたり、自然の様子を四季の変化などから感じ取ったりすることができるようにする。 ・身近な自然や身近にあるものを工夫して遊び道具を作って遊び、みんなと楽しみながら遊びを創り出せるようにする。 ・自分自身の生活や成長を振り返る活動を行い、生活や成長を支えてくれた人々に感謝し、家族の一員として意欲的に生活できるようにする。
音楽	○音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を形づくっている要素（旋律、リズム等）とその働きを視覚的に捉え、自分が感じたり、考えたりしたことと、音楽を形づくっている要素と関連させて表現できるように自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けて表現することができる能力 ○既習事項を生かして、意欲的に新たな課題を見付け自力解決する態度・能力	・音や音楽に対して、自分が感じたり、考えたりしたことについて音楽を形づくっている要素と関連させて表現できるように、振り返りや感想を書くことによって、楽典的内容を定着させ、考える手だてとする。 ・既習事項を確認した上で、交流活動で互いの考えを伝え合い自己肯定感を高め、新たな課題を自力で解決できるようにする。
図画工作	○感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わい、すすんで表現したり鑑賞したりする態度 ○形や色、材料などを基に、豊かな発想をし、手や体全体の感覚を働かせる技能 ○身の回りの作品やお互いの作品などから、自己と他者の違いを知って、よさを認め合う態度・能力	・児童の実態に合った題材設定を行い、児童の実生活に寄り添った内容を扱うことで、感性を働かせつくりだす喜びを味わえるようにする。 ・様々な材料や用具に出合わせ、手や体全体の感覚で感じとったり触れたりしながら、技能を身に付けられるようにする。 ・授業中につくった作品の鑑賞を相互で行い、共につくり合う活動を通して、面白さや楽しさを感じ取ることで、よりよい作品をつくろうとする意欲を高めるようにする。
家庭	○学習したことを家庭生活において具体的に生かそうとする態度・能力 ○日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用する態度・能力	・家庭生活における様々な工夫に気付き、その工夫について考えられるようにするために、自分や家庭での食事や季節による過ごし方の違いなどを振り返り、交流し、まとめる作業を繰り返し行う。 ・調理実習や裁縫、洗濯などの実践的、体験的な活動を行い、実生活でも取り組めるよう家庭と連携する。
体育	○基礎的・基本的な知識や技能の習得 ○運動や健康について自己の課題を見付ける能力 ○自己の課題を解決するための活動を選んだり、工夫したりする能力	・学習カードや掲示資料、ICT を活用しながら、児童が運動の行い方や練習方法を確認できるようにする。 ・基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける時間を、計画的に、十分に確保する。 ・東京都体力テストの結果を基に自己の課題に気付けるようにする。 ・低学年や中学年では、様々な練習方法や解決方法を提示し、課題に合わせた方法を取る大切さについて学べるようにする。高学年では、経験を基に、自己の課題に合う練習方法や解決方法を自分で考えたり選択したりして、実践する時間を十分に確保する。
外国語	○言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語の音声の違い等に気付き、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能 ○身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う能力 ○音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味を理解し、書き写す技能	・映像教材や音声教材などを活用し、場面を想像しながら日常生活に関する身近な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。 ・質問して答える会話のパターンの練習や ALT と会話をする活動を多く設定する。また、海外の小学生や日本の大学生との交流活動、TGG やイングリッシュキャラバンなど、英語を実際に使う場面を多く設定し、自分の考えや気持ちなどを伝えられるようにする。 ・歌やチャンツなどで、音声に十分に慣れ親しませたり、書き写させたりすることを、単元を通して授業の中で繰り返し取り扱う。